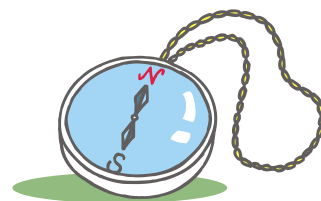


羅 針 盤

第 27 号 令和4年（2022年）12月19日（月）



◆ 認め合い、高め合う、ウサギとカメ

皆さんはイソップ物語でも有名な童話「ウサギとカメ」のお話をよく知っていることだと思います。イソップ物語では、足の速いウサギと足の遅いカメが山のふもとまで駆けっこをして、ウサギが足の速さを生かして引き離し、ここまでくれば一安心と、途中にあった木の陰で休憩をして、つい油断して居眠りをしてしまい、カメに追い越されて負けてしまうというお話でした。今日は、ちょっと違った「ウサギとカメ」のお話を紹介します。『昔々、あるところに、ウサギとカメが仲良く暮らしていました。ある日、どちらからともなく駆けっこでの競争をしたくなりました。ウサギは、自分が足が速いことを知っていましたが、どれだけ速いか比べてみたいと思っていました。カメは、自分が足が遅いことを知ってはいましたが、どれだけ遅いのか比べてみたことがありませんでした。そこで、ずーっと向こうの山のふもとまで競争をしてみようということになりました。「よーい、ドン！」ウサギとカメは同時にスタートしました。ウサギは、自分の足の速さを生かして、脇目もふらずにゴールをめざして懸命に走っていききました。イソップ物語に登場してくるようなウサギではないので、途中で休憩をするようなこともなく、先にゴールをして、カメがゴールするのを待ちました。カメがゴールすると、カメは息を切らしながらも、「ウサギさんはやっぱり速いね。スタートしてからあっという間に見えなくなっちゃった。途中の道ばたにいたお地蔵さんのところでやめようかとも思ったんだけど、お地蔵さんが「がんばれ！がんばれ！」と励ましてくれているような気がしたので、走り続けたんだよ。でもやっぱり茶店のところや郵便ポストのところでつらくなって何度も走るのをやめようと思ったんだけど、最後までなんとかがんばってゴールすることができたんだよ。本当にウサギさんはとっても速いね。」と言いました。すると、その言葉を聞いたウサギは、「僕は、足には自信があったから、ただただひたすらにゴールをめざして一生懸命に走ったんだよ。でも、途中にお地蔵さんや茶店や郵便ポストがあったなんて全然気づかなかったよ。カメさんは、いろいろな物を見ながら、一生懸命に最後まで努力して走りきったんだね。また、これからも教えてね。」と答えました。ウサギとカメは、お互いを認め合うことにより、自分の得意なことや不得意なことに気づいて、自分自身に自信を持つことで、前よりももっと仲良く暮らしました。おしまい。』というお話です。ウサギやカメの考え方によって、あるいは、取った行動や発言、相手を認めるといった視点をもっているということで、



随分と話の中身や展開は変わるものです。私たちも日ごろから互いに違いを認め合い、互いの意見を尊重し、高めあっていく存在であることが何よりも大切であると思います。互いに違いを認め合い、そして、成長を認め合える関係がつけられることは他には変えがたいものを与えてくれるといったことを教えてくれているお話ではないかと思います。認め合うことを通じて、成長していく自分の姿をたくさん見つけ出していくことができるのではないのでしょうか。これからも、認め合い高めあう関係づくりを築きあげていってくれることを心より願っています。